

ウクライナ、^ち地下^か壕^{ごう}から^{とど}届^はいた^い俳^く句

The Wings of a Butterfly

Butterflies are as fragile, small and beautiful as haiku are.
And their wings always remind me of book pages.
I feel like poetry is similar to a flying butterfly.
So I always wished my haiku could fly far far away.

蝶は俳句のように、繊細で小さく、美しい。
蝶の羽はいつも本のページを思い起こさせる。
私にとって詩は舞う蝶のように感じます。
そして私はいつも自分の俳句が
遠くへ羽ばたいていくことを願っています。

親愛なる読者の皆さんへ

もしあなたがこの本を手を持っているなら、それは私の願いが果たせたことを意味します。私はなんとか自分を信じ、自分のしていることを信じることができました。この最初の句集は、10年間続いた私の旅の結果です。

2013年12月、14歳のとき、心臓の病気で入院していた病院で誰かが置いていった本を手に取りました。それは様々な分野の詩を取り上げた本で、日本の俳句が私の目に留まりました。俳句が短い言葉の中に多くの意味を込めることができることに感動しました。そしてこれは印象を留めることができる素晴らしい方法だと気づきました。まるで写真を撮るように、しかもより鮮明に、より深く。

その偶然がきっかけで、私は俳句を始めました。初期の俳句は未熟な出来で、私はあまり真剣に取り組んでいませんでした。それはどちらかというと、私の周りの美しいものを詩の形式で書き留めた短いメモのようでした。俳句ごとに作成年月日を記していたので、それらを書き溜めたノートは個人的な日記のようでした。

しばらくして、ロシア語に翻訳された日本の古典俳句についての本を見つけ、日本の美学や世界観をより深く学びました。そこで俳句の即興性に惹かれました。情景の一部を描き、ほのめかすことで、その句を読んだ人の想像の中で、まるで花の蕾が開くように多面的なシーンが展開されます。その瞬間、俳句の素晴らしさ、奥深さを感じるのです。

私は国際的な俳句コンテストに何度か応募しました。2018年には第7回日露俳句コンテストでJAL財団賞をいただきました。それは大きな驚きでした。その頃から私は俳句に真剣に向き合うようになり、花や木、冬や春について詠み続けました。2022年2月24日、ロシアが私たちの国を攻撃し、新しい現実を目覚めるその日まで。侵攻後も私は作句をやめませんでした。私の俳句のテーマは戦争に変化しました。この惨状を俳句という形で記録するために、俳句を詠み続けることの重要性を感じました。もちろん、世界中がニュースで戦争について知っています。しかし、俳句はメディアの報道では感じるこのできない繊細なニュアンスを伝えることができます。

私の俳句は両親と愛犬のチワワと約3か月間過ごさなければならなかった地下壕で詠まれました。私の俳句は空襲警報のサイレンと爆発音に面したハルキウの家で詠まれました。私の俳句は避難民として移住を強いられた別の都市で詠まれました。

未来のために、私の作品が私たちの痛みやつらい経験を伝えることができると、切に願います。そしてここでそれをお伝えできることに心から感謝いたします。翻訳の難しさはあっても、美には言葉の壁はないと信じています。ウクライナ人の私がどうしてロシア語で俳句を詠んだのかと思う方もいるかもしれません。本格的な侵攻の前から、領土的に接しているウクライナの地域ではロシア語は広く使われています。ここでは詳しくは記しませんが、1世紀以上にわたるロシア・ソ連の植民地政策の結果です。子供の頃からウクライナ語は使えますが、ロシア語は私の第一言語でした。多くの同胞がそうしているように、今回のロシアによる軍事侵攻の後で私はロシア語を使うことを諦めました。ですから、出版にあたり、私の俳句はオリジナルの言語であるロシア語の表記となっています。俳句を詠む

ときは、1行目は5音節、2行目は7音節、というように、必ず五・七・五の音節を重視しています。それは伝統と「型」へのオマージュです。ウクライナ語はロシア語に非常によく似た言語ですが、残念なことに、ロシア語の俳句をウクライナ語にすると「型」から外れてしまいます。しかし、私はいつか自分で俳句をウクライナ語に翻訳し、すべてのウクライナ人に俳句という素晴らしい詩の美しさを伝えたいと思っています。

しかし今はそれと同じくらい重要な役割を目の前にしています。

私の初めての句集が、まさに俳句発祥の地で出版されることにとてもわくわくしています。読者の方がこの句集に興味を持ってくださることを願っています。この本に目を留めてくださったすべての方を心の中でハグしたい気持ちです。ありがとうございます。

ウラジスラバ・シモノバ

◆目次

扉（タイトルへの想い）	001
親愛なる読者の皆さんへ ウラジスラバ・シモノバ	002
俳句の言語表記について	008
ウラジスラバ俳句	009
俳句との出会い	010
俳句 2014～	013
2015～	026
2016～	044
2020～	050
～戦争～	053
2022～	054
エッセイ、写真（ウラジスラバ）	

対談 (京都・慈受院門跡にて)	085
セルギー・コルスンスキー駐日ウクライナ特命全権大使 × 黛まどか	
監修にあたって	093
黛まどか	
おわりに	098
Special Thanks	101
著者・監修者プロフィール	102
参考資料・ウクライナ近現代史	103

◆ 俳句の言語表記について

本書の俳句はロシア語と日本語の併記です。

著者の生まれ育ったウクライナの都市ハルキウは、ロシアに地理的に近い場所に位置し、ロシア語は著者にとって慣れ親しんだ言語でした。ロシアによるウクライナへの軍事攻撃が激化・長期化する中、著者はロシア語を使うことを諦めました。本書では、14歳で作句を始めた著者が軍事侵攻後も詠み続けたロシア語の俳句のうち、厳選した50句を収録しています。

2. 12. 2013 —

2013年12月2日—

俳句との出会い

凍てつく12月の夜、私は病院のベッドで横たわって、本のページをめくっていました。詩のいろいろな形式について書かれている本でした。退院した患者さんの一人が忘れていったのでしょうか。私は西行の短歌や松尾芭蕉の俳句が載っている日本の詩の章に惹かれました。学校の文学の授業でもこうした詩について学んだことはありますが、そのときはまだそれほど心に響きませんでした。

まづ 祝へ 梅を ころの 冬籠り

角川書店『芭蕉年譜大成』（今 栄蔵）

芭蕉自身が声をかけてくれたようでした。まったく楽しくない入院生活の中、この三行詩は希望の光を発していて、またそれでありながら、とても簡潔で素敵でした。短い詩がこんな深さを持つことに感動しました。そして、自分でも書いてみたいと思ったのです。五・七・五のことを読

んでから、周りを見渡して、何か俳句の種になりそうなものを探してみました。すでに夜が迫ってきており、隣の棟の窓は次々と暗くなっていきました。とても寂しかったですし、風の音が一層心を締めつけていました。指を折って、私は俳句の音節を数え始めました。

Свет погас в окне,
ветер воет в сумраке.
Он спать не хочет.

02. 12. 2013

冬の風唸る窓の灯消えてより

この句は基準からはほど遠いですが、私にとって大切な思い出になっています。不眠と冬の風しか相手にしてくれない暗い病室の中で作ったこの句こそが、私の道の始まりになったからです。そのとき、私は14歳でした。



Моргает луна
отражением в глазах
старой собаки.

13. 05. 2014

老 犬 の 瞳 に 映 る 月 涼 し

Разлетаются,
как цвет вишни на ветру,
близкие люди.

17. 05. 2014

さくらさくら離れ離れになりゆけり

桜の咲いている期間はとても美しいですが、^{はかな}儚いです。咲いたのを見て感動したら、もうあっという間に地面は花びらだらけになります。咲いている桜を眺めて、私たちの人生も短いということを思い出させられます。親しい人たちは、別の町や国に引っ越していったり、ただ単純に別の道を歩いていったり、あるいはあの世に行ってしまうたりして、去っていきます。

戦争の風は人間という花をさらにひどく散らしてしまいました。私の友人や知り合いの多くは、今は何千キロも離れたところにいます。親しい人との別れを強いられていない家庭は、ほぼありません。それでも、私は信じています。また必ず春が来て、桜はかつてないほど美しく咲くのです。

ウクライナ、地下壕から届いた俳句

The Wings of a Butterfly

ウラジスラバ・シモノバ 著／黛まどか 監修

発 行：集英社インターナショナル（発売：集英社）

定 価：2,200 円（10%税込）

発売日：2023 年 8 月 25 日

I S B N：978-4-7976-7434-7

ネット書店でのご予約・ご注文は [こちらからどうぞ！](#)